

調査研究

消費生活の地域格差についての分析 (2)

— 食パターン類似率 —*

内野澄子

はしがき：地域格差論の再検討と人口学的関連

食生活における地域格差の収縮化あるいは平準化ということが、いわれ始めたのはもうかなり以前のことである。この傾向はほぼ異論の余地のない事実としてみとめられているとよいであろう。しかし、この食生活の地域格差の収縮というばあい、どのような方向に向って収縮したかはあまりあきらかにされていない。

食生活の地域格差が、既存の特定の地域パターンを基準としてそれに向っての収縮傾向にあるのか、あるいは全く新しい食パターンに向って収縮しているかといった点があきらかにされなければならない。たとえば、全国各県の食生活パターンが東京パターンに向って一般的に接近していったとするならば、それは、地域格差の東京パターンに向っての収縮であるということができよう。

本稿は、食生活の全体像をとらえる1つの方法として、「全国消費実態調査」で調査された勤労者世帯における購入食品のすべてについての金額構成比をとり、これを個々の県のパターンとして他のすべての県のパターンとの類似率を計算し、46都道府県の類似率のマトリックスを作成した。この方法によって、上述の意義による地域の食生活パターンがどのような方向に接近する傾向があるかをある程度分析することができる。

このような類似率は本質的に相対的なものであり、またここでの指標である購入食品の金額による構成比パターンはそれ自体食品摂取状況の実態を直接示すものではないといった弱点があることはいうまでもない。したがって、ここでの分析結果については、食構造の実態分析によってチェックしてみることが望ましい。

本稿では、県を単位とする食パターンの他県のそれに対する類似性向を分析したものであるが、食生活パターンと人口現象の地域パターンとの関係についての研究に拡大発展せしめることができる。たとえば、食生活の地域パターン類似圏と死亡秩序の地域パターンの類似圏との間にどのような相関々係があるかといった研究である。さらに、また食生活の地域パターンの類似圏の形成に人口移動の影響が予想されるため、人口移動による特定地域への人口流入、集積と食生活パターンの類似圏との関連を研究することができる。以上は、食生活パターンを中心とする人口学上の新しい研究課題であるといえよう。

* 本稿は『人口問題研究所年報』第17号、(昭和47年)において発表した「消費生活の地域格差についての1つの分析—食パターンの類似率—(1)」の総合分析編にあたる。当時なおぼう大な計算の過程にあり、そのごく一部の分析結果を発表したにとどまり、その後ほぼ計算を終ったため、その総合分析の一端を本稿に発表したものである。類似率および異質指数の計算方法その他技術的な点については上掲論文を参照されたい。

1章 食パターン類似率の県別構造と変化

個々の都道府県の食パターンを基準としてその他の45県との類似率を昭和34年、39年、44年について算定し、その類似率を (1)似ている (1~0.995), (2)やや似ている (0.994~0.990), (3)やや似ていない (0.989~0.970), (4)似ていない (0.969~0) の4個の水準に区分し、それぞれの水準に属する県の分布を示したものが表1である。

類似率水準のもっとも高い“(1)似ている”は、一般に東北諸県において少なく、四国、九州の諸県

表1 各県からみた類似率水準別都道府県数

県名	年次	計	(1) 似ている	(2) やや似ている	(3) やや似てない	(4) 似てない
1 北海道	34年	45 (100.0)	5 (11.1)	9 (20.0)	27 (60.0)	4 (8.9)
	39年	45 (100.0)	2 (4.4)	7 (15.6)	30 (66.7)	6 (13.3)
	44年	45 (100.0)	3 (6.7)	5 (11.1)	30 (66.7)	7 (15.6)
2 青森	34年	45 (100.0)	4 (8.9)	18 (40.0)	20 (44.4)	3 (6.7)
	39年	45 (100.0)	3 (6.7)	8 (17.8)	26 (57.8)	8 (17.8)
	44年	45 (100.0)	1 (2.2)	4 (8.9)	20 (44.4)	20 (44.4)
3 岩手	34年	45 (100.0)	7 (15.6)	22 (48.9)	12 (26.7)	4 (8.9)
	39年	45 (100.0)	2 (4.4)	4 (8.9)	24 (53.3)	15 (33.3)
	44年	45 (100.0)	4 (8.9)	7 (15.6)	25 (55.6)	9 (20.0)
4 宮城	34年	45 (100.0)	6 (13.3)	21 (46.7)	17 (37.8)	1 (2.2)
	39年	45 (100.0)	1 (2.2)	8 (17.8)	36 (80.0)	0 (—)
	44年	45 (100.0)	2 (4.4)	19 (42.2)	24 (53.3)	0 (—)
5 秋田	34年	45 (100.0)	1 (2.2)	5 (11.1)	33 (73.3)	6 (13.3)
	39年	45 (100.0)	1 (2.2)	5 (11.1)	27 (60.0)	12 (26.7)
	44年	45 (100.0)	1 (2.2)	5 (11.1)	32 (71.1)	7 (15.6)
6 山形	34年	45 (100.0)	8 (17.8)	24 (53.3)	11 (24.4)	2 (4.4)
	39年	45 (100.0)	2 (4.4)	16 (35.6)	14 (31.1)	13 (28.9)
	44年	45 (100.0)	4 (8.9)	7 (15.6)	26 (57.8)	8 (17.8)
7 福島	34年	45 (100.0)	8 (17.8)	18 (40.0)	15 (33.3)	4 (8.9)
	39年	45 (100.0)	5 (11.1)	11 (24.4)	24 (53.3)	5 (11.1)
	44年	45 (100.0)	9 (20.0)	10 (22.2)	23 (51.1)	3 (6.7)
8 茨城	34年	45 (100.0)	3 (6.7)	26 (57.8)	15 (33.3)	1 (2.2)
	39年	45 (100.0)	4 (8.9)	13 (28.9)	27 (60.0)	1 (2.2)
	44年	45 (100.0)	0 (—)	0 (—)	36 (80.0)	9 (20.0)
9 栃木	34年	45 (100.0)	4 (8.9)	17 (37.8)	22 (48.9)	2 (4.4)
	39年	45 (100.0)	6 (13.3)	14 (31.1)	22 (48.9)	3 (6.7)
	44年	45 (100.0)	6 (13.3)	6 (13.3)	31 (68.9)	2 (4.4)
10 群馬	34年	45 (100.0)	0 (—)	5 (11.1)	34 (75.6)	6 (13.3)
	39年	45 (100.0)	1 (2.2)	8 (17.8)	28 (62.2)	8 (17.8)
	44年	45 (100.0)	4 (8.9)	5 (11.1)	31 (68.9)	5 (11.1)

11 埼玉	34 年	45 (100.0)	2 (4.4)	3 (6.7)	33 (73.3)	7 (15.6)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	8 (17.8)	25 (55.6)	11 (24.4)
	44 年	45 (100.0)	3 (6.7)	6 (13.3)	33 (73.3)	3 (6.7)
12 千葉	34 年	45 (100.0)	3 (6.7)	7 (15.6)	33 (73.3)	2 (4.4)
	39 年	45 (100.0)	2 (4.4)	8 (17.8)	25 (55.6)	10 (22.2)
	44 年	45 (100.0)	3 (6.7)	3 (6.7)	32 (73.3)	7 (15.6)
13 東京	34 年	45 (100.0)	0 (—)	1 (2.2)	6 (13.3)	38 (84.4)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	3 (6.7)	11 (24.4)	30 (66.7)
	44 年	45 (100.0)	2 (4.4)	3 (6.7)	21 (46.7)	19 (42.2)
14 神奈川	34 年	45 (100.0)	1 (2.2)	5 (11.1)	21 (46.7)	18 (40.0)
	39 年	45 (100.0)	3 (6.7)	4 (8.9)	17 (37.8)	21 (46.7)
	44 年	45 (100.0)	4 (8.9)	7 (15.6)	28 (62.2)	6 (13.3)
15 新潟	34 年	45 (100.0)	7 (15.6)	16 (35.6)	20 (44.4)	2 (4.4)
	39 年	45 (100.0)	3 (6.7)	10 (22.2)	30 (66.7)	2 (4.4)
	44 年	45 (100.0)	5 (11.1)	5 (11.1)	27 (60.0)	8 (17.8)
16 富山	34 年	45 (100.0)	3 (6.7)	14 (31.1)	23 (51.1)	5 (11.1)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	5 (11.1)	32 (71.1)	7 (15.6)
	44 年	45 (100.0)	2 (4.4)	9 (20.0)	32 (71.1)	2 (4.4)
17 石川	34 年	45 (100.0)	2 (4.4)	6 (13.3)	27 (60.0)	10 (22.2)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	6 (13.3)	33 (73.3)	5 (11.1)
	44 年	45 (100.0)	1 (2.2)	3 (6.7)	32 (71.1)	9 (20.0)
18 福井	34 年	45 (100.0)	3 (6.7)	13 (28.9)	24 (53.3)	5 (11.1)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	14 (31.1)	28 (62.2)	2 (4.4)
	44 年	45 (100.0)	2 (4.4)	11 (24.4)	27 (60.0)	5 (11.1)
19 山梨	34 年	45 (100.0)	0 (—)	6 (13.3)	34 (75.6)	5 (11.1)
	39 年	45 (100.0)	3 (6.7)	13 (28.9)	29 (64.4)	0 (—)
	44 年	45 (100.0)	1 (2.2)	9 (20.0)	34 (75.6)	1 (2.2)
20 長野	34 年	45 (100.0)	0 (—)	3 (6.7)	37 (82.2)	5 (11.1)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	7 (15.6)	32 (71.1)	5 (11.1)
	44 年	45 (100.0)	2 (4.4)	7 (15.6)	33 (73.3)	3 (6.7)
21 岐阜	34 年	45 (100.0)	5 (11.1)	21 (46.7)	17 (37.8)	2 (4.4)
	39 年	45 (100.0)	1 (2.2)	7 (15.6)	33 (73.3)	4 (8.9)
	44 年	45 (100.0)	3 (6.7)	12 (26.7)	29 (64.4)	1 (2.2)
22 静岡	34 年	45 (100.0)	16 (35.6)	14 (31.1)	14 (31.1)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	10 (22.2)	19 (42.2)	19 (42.2)	1 (2.2)
	44 年	45 (100.0)	9 (20.0)	17 (37.8)	17 (37.8)	0 (—)
23 愛知	34 年	45 (100.0)	2 (4.4)	9 (20.0)	31 (68.9)	3 (6.7)
	39 年	45 (100.0)	3 (6.7)	17 (37.8)	23 (51.1)	2 (4.4)
	44 年	45 (100.0)	4 (8.9)	15 (33.3)	25 (55.6)	1 (2.2)
24 三重	34 年	45 (100.0)	15 (33.3)	17 (37.8)	12 (26.7)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	10 (22.2)	11 (24.4)	22 (48.9)	2 (4.4)
	44 年	45 (100.0)	10 (22.2)	12 (26.7)	23 (51.1)	0 (—)

25 滋 賀	34	年	45 (100.0)	6 (13.3)	23 (51.1)	15 (33.3)	1 (2.2)
	39	年	45 (100.0)	0 (—)	9 (20.0)	33 (73.3)	3 (6.7)
	44	年	45 (100.0)	2 (4.4)	16 (35.6)	26 (57.8)	1 (2.2)
26 京 都	34	年	45 (100.0)	4 (8.9)	7 (15.6)	34 (75.6)	0 (—)
	39	年	45 (100.0)	4 (8.9)	8 (17.8)	24 (53.3)	9 (20.0)
	44	年	45 (100.0)	4 (8.9)	5 (11.1)	27 (60.0)	9 (20.0)
27 大 阪	34	年	45 (100.0)	2 (4.4)	4 (8.9)	31 (68.9)	8 (17.8)
	39	年	45 (100.0)	2 (4.4)	5 (11.1)	22 (48.9)	15 (33.3)
	44	年	45 (100.0)	3 (6.7)	4 (8.9)	20 (44.4)	18 (40.0)
28 兵 庫	34	年	45 (100.0)	2 (4.4)	4 (8.9)	28 (62.2)	11 (24.4)
	39	年	45 (100.0)	4 (8.9)	7 (15.6)	19 (42.2)	15 (33.3)
	44	年	45 (100.0)	5 (11.1)	5 (11.1)	24 (53.3)	11 (24.4)
29 奈 良	34	年	45 (100.0)	5 (11.1)	11 (24.4)	28 (62.2)	1 (2.2)
	39	年	45 (100.0)	1 (2.2)	4 (8.9)	23 (51.1)	17 (37.8)
	44	年	45 (100.0)	4 (8.9)	6 (13.3)	26 (57.8)	9 (20.0)
30 和 歌 山	34	年	45 (100.0)	4 (8.9)	17 (37.8)	19 (42.2)	5 (11.1)
	39	年	45 (100.0)	4 (8.9)	7 (15.6)	27 (60.0)	7 (15.6)
	44	年	45 (100.0)	0 (—)	12 (26.7)	23 (51.1)	10 (22.2)
31 鳥 取	34	年	45 (100.0)	1 (2.2)	18 (40.0)	18 (40.0)	8 (17.8)
	39	年	45 (100.0)	3 (6.7)	17 (37.8)	23 (51.1)	2 (4.4)
	44	年	45 (100.0)	6 (13.3)	18 (40.0)	21 (46.7)	0 (—)
32 島 根	34	年	45 (100.0)	14 (31.1)	18 (40.0)	12 (26.7)	1 (2.2)
	39	年	45 (100.0)	4 (8.9)	11 (24.4)	22 (48.9)	8 (17.8)
	44	年	45 (100.0)	2 (4.4)	16 (35.6)	25 (55.6)	2 (4.4)
33 岡 山	34	年	45 (100.0)	15 (33.3)	12 (26.7)	17 (37.8)	1 (2.1)
	39	年	45 (100.0)	3 (6.7)	12 (26.7)	29 (64.4)	1 (2.1)
	44	年	45 (100.0)	4 (8.9)	14 (31.1)	27 (60.0)	0 (—)
34 広 島	34	年	45 (100.0)	8 (17.8)	17 (37.8)	19 (42.2)	1 (2.2)
	39	年	45 (100.0)	9 (20.0)	7 (15.6)	28 (62.2)	1 (2.2)
	44	年	45 (100.0)	7 (15.6)	10 (22.2)	22 (48.9)	6 (13.3)
35 山 口	34	年	45 (100.0)	16 (35.6)	17 (37.8)	11 (24.4)	1 (2.2)
	39	年	45 (100.0)	10 (22.2)	8 (17.8)	25 (55.6)	2 (4.4)
	44	年	45 (100.0)	9 (20.0)	11 (24.4)	25 (55.6)	0 (—)
36 徳 島	34	年	45 (100.0)	13 (28.9)	18 (40.0)	12 (26.7)	2 (4.4)
	39	年	45 (100.0)	4 (8.9)	6 (13.3)	27 (60.0)	8 (17.8)
	44	年	45 (100.0)	7 (15.6)	8 (17.8)	27 (60.0)	3 (6.7)
37 香 川	34	年	45 (100.0)	13 (28.9)	14 (40.0)	17 (26.7)	1 (2.2)
	39	年	45 (100.0)	4 (8.9)	11 (24.4)	29 (64.4)	1 (2.2)
	44	年	45 (100.0)	8 (17.8)	13 (28.9)	23 (51.1)	1 (2.2)
38 愛 媛	34	年	45 (100.0)	20 (44.4)	14 (31.1)	9 (20.0)	2 (4.4)
	39	年	45 (100.0)	12 (26.7)	11 (24.4)	21 (46.7)	1 (2.2)
	44	年	45 (100.0)	14 (31.1)	9 (20.0)	22 (48.9)	0 (—)

39 高 知	34 年	45 (100.0)	4 (8.9)	19 (42.2)	16 (35.6)	6 (13.3)
	39 年	45 (100.0)	2 (4.4)	6 (13.3)	28 (62.2)	9 (20.0)
	44 年	45 (100.0)	2 (4.4)	9 (20.0)	32 (48.9)	2 (4.4)
40 福 岡	34 年	45 (100.0)	15 (33.3)	17 (37.8)	12 (26.7)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	10 (22.2)	9 (20.0)	25 (55.6)	1 (2.2)
	44 年	45 (100.0)	11 (24.4)	11 (24.4)	22 (48.9)	1 (2.2)
41 佐 賀	34 年	45 (100.0)	13 (28.9)	16 (35.6)	14 (31.1)	2 (4.4)
	39 年	45 (100.0)	8 (17.8)	7 (15.6)	24 (53.3)	6 (13.3)
	44 年	45 (100.0)	9 (20.0)	9 (20.0)	26 (57.8)	1 (2.2)
42 長 崎	34 年	45 (100.0)	12 (26.7)	12 (26.7)	20 (44.4)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	3 (6.7)	10 (22.2)	25 (55.6)	7 (15.6)
	44 年	45 (100.0)	7 (15.6)	14 (31.1)	24 (53.3)	0 (—)
43 熊 本	34 年	45 (100.0)	14 (31.1)	14 (31.1)	16 (35.6)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	9 (20.0)	15 (33.3)	20 (44.4)	1 (2.2)
	44 年	45 (100.0)	9 (20.0)	10 (22.2)	24 (53.3)	2 (4.4)
44 大 分	34 年	45 (100.0)	14 (31.1)	13 (28.9)	17 (37.8)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	9 (20.0)	6 (13.3)	28 (62.2)	2 (4.4)
	44 年	45 (100.0)	13 (28.9)	9 (20.0)	23 (51.1)	0 (—)
45 宮 崎	34 年	45 (100.0)	11 (24.4)	17 (37.8)	15 (33.3)	2 (4.4)
	39 年	45 (100.0)	8 (17.8)	9 (20.0)	26 (57.8)	2 (4.4)
	40 年	45 (100.0)	4 (8.9)	10 (22.2)	29 (64.4)	2 (4.4)
46 鹿 児 島	34 年	45 (100.0)	13 (28.9)	11 (24.4)	20 (44.4)	1 (2.2)
	39 年	45 (100.0)	9 (20.0)	10 (22.2)	26 (57.8)	0 (—)
	44 年	45 (100.0)	9 (20.0)	8 (17.8)	27 (60.0)	1 (2.2)

備考：()内数値は分布割合を示したものである。尚、東北地域（北海道を含む）については再掲。

において多い。したがって類似率のもっとも低い“(4)似ていない”は東北において多く、四国、九州において少ないといった一般的特徴がみられる。しかし、個々の県についてみると類似率水準別分布ならびにその変化は極めて複雑である。全国的な動向をあきらかにするためには、個々の県単位で観察するよりも、46都道府県をいくつかの地理的地域にまとめて観察することが便利である。

2章 食パターンの地域別異質性構造

前章では個々の都道府県の食パターンの全国都道府県に対する類似率を4個の水準に区分して、それぞれの水準に対応する県数を昭和34年、39年、44年の3年次について考察してみた。しかし、このばあいの類似率水準に対応する県の増減はあきらであるが、その対応する多数の県とその変化を地理的關係で読みとることはよいではない。

そこで、46都道府県を16の地理的地域区分によってまとめ、類似率あるいは異質指数によって各年次についてマトリックスを作製すると、個々の地域が全国のどのような地域と類似しているか、異質性が高いかをよく読みとることができる。

表2は類似率により、表3は異質指数により、昭和34年、39年、44年の3年次のマトリックスを示したものである。さらに、異質指数によるものを図で示したものが図1である。

なお、地域区分は次の通りである。

昭和34年

表2 地域間食パターン類似率

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	東山	京辺 阪周	北陸	中京	京阪神	山陰	山陽	北四国	南四国	北九州	南九州
北海道	—	0.995	0.996	0.990	0.963	0.989	0.983	0.985	0.984	0.967	0.990	0.986	0.987	0.989	0.988	0.989
北東北	0.995	—	0.993	0.984	0.961	0.985	0.986	0.988	0.982	0.971	0.989	0.989	0.987	0.990	0.989	0.989
南東北	0.996	0.993	—	0.993	0.971	0.991	0.986	0.985	0.989	0.976	0.991	0.990	0.989	0.992	0.991	0.992
北関東	0.990	0.984	0.993	—	0.975	0.991	0.990	0.977	0.973	0.973	0.987	0.985	0.986	0.989	0.988	0.989
南関東	0.963	0.961	0.971	0.975	—	0.974	0.966	0.953	0.977	0.987	0.957	0.975	0.962	0.968	0.970	0.971
東山	0.989	0.985	0.991	0.991	0.974	—	0.982	0.977	0.987	0.975	0.985	0.985	0.984	0.987	0.986	0.987
京阪周辺	0.983	0.986	0.986	0.990	0.966	0.982	—	0.989	0.988	0.985	0.989	0.994	0.992	0.992	0.992	0.990
北陸	0.985	0.988	0.985	0.977	0.953	0.977	0.989	—	0.983	0.972	0.989	0.988	0.990	0.989	0.985	0.983
中京	0.984	0.982	0.989	0.973	0.977	0.987	0.988	0.983	—	0.984	0.988	0.991	0.991	0.992	0.991	0.991
京阪神	0.967	0.971	0.976	0.973	0.987	0.975	0.985	0.972	0.984	—	0.969	0.988	0.977	0.981	0.982	0.981
山陰	0.990	0.989	0.991	0.987	0.957	0.985	0.989	0.989	0.988	0.969	—	0.990	0.993	0.993	0.992	0.990
山陽	0.986	0.989	0.990	0.985	0.975	0.985	0.994	0.988	0.991	0.988	0.990	—	0.993	0.995	0.995	0.994
北四国	0.987	0.987	0.989	0.986	0.962	0.984	0.992	0.990	0.991	0.977	0.993	0.993	—	0.995	0.993	0.992
南四国	0.989	0.990	0.992	0.989	0.968	0.987	0.992	0.989	0.992	0.981	0.993	0.995	0.995	—	0.996	0.996
北九州	0.988	0.989	0.991	0.988	0.970	0.986	0.992	0.985	0.991	0.982	0.992	0.995	0.993	0.996	—	0.996
南九州	0.989	0.989	0.992	0.989	0.971	0.987	0.990	0.983	0.991	0.981	0.990	0.994	0.992	0.996	0.996	—

昭和39年

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	東山	京周 阪辺	北陸	中京	京阪神	山陰	山陽	北四国	南四国	北九州	南九州
北海道	—	0.993	0.991	0.989	0.963	0.988	0.969	0.983	0.979	0.962	0.989	0.980	0.982	0.980	0.983	0.987
北東北	0.993	—	0.989	0.981	0.950	0.981	0.967	0.987	0.973	0.955	0.988	0.975	0.984	0.974	0.982	0.982
南東北	0.991	0.989	—	0.990	0.970	0.990	0.974	0.988	0.984	0.970	0.989	0.982	0.980	0.982	0.982	0.986
北関東	0.989	0.981	0.990	—	0.977	0.991	0.974	0.983	0.989	0.972	0.990	0.985	0.980	0.985	0.984	0.987
南関東	0.963	0.950	0.970	0.977	—	0.980	0.973	0.964	0.978	0.988	0.962	0.981	0.946	0.983	0.961	0.971
東山	0.988	0.981	0.990	0.991	0.980	—	0.976	0.986	0.989	0.977	0.987	0.986	0.979	0.987	0.982	0.986
京阪周辺	0.969	0.967	0.974	0.974	0.973	0.976	—	0.977	0.983	0.988	0.976	0.988	0.972	0.988	0.983	0.987
北陸	0.983	0.987	0.988	0.983	0.964	0.986	0.977	—	0.984	0.971	0.988	0.981	0.984	0.983	0.985	0.985
中京	0.979	0.973	0.984	0.989	0.978	0.989	0.983	0.984	—	0.982	0.987	0.989	0.982	0.991	0.988	0.991
京阪神	0.962	0.955	0.970	0.972	0.988	0.977	0.988	0.971	0.982	—	0.966	0.988	0.958	0.989	0.974	0.981
山陰	0.989	0.988	0.989	0.990	0.962	0.987	0.976	0.988	0.987	0.966	—	0.987	0.995	0.984	0.991	0.991
山陽	0.980	0.975	0.982	0.985	0.981	0.986	0.988	0.981	0.989	0.988	0.987	—	0.983	0.996	0.990	0.994
北四国	0.982	0.984	0.980	0.980	0.946	0.979	0.972	0.984	0.982	0.958	0.995	0.983	—	0.983	0.992	0.989
南四国	0.980	0.974	0.982	0.985	0.983	0.987	0.988	0.983	0.991	0.989	0.984	0.996	0.983	—	0.990	0.994
北九州	0.983	0.982	0.982	0.984	0.961	0.982	0.983	0.985	0.988	0.974	0.991	0.990	0.992	0.990	—	0.995
南九州	0.987	0.982	0.986	0.987	0.971	0.986	0.987	0.985	0.991	0.981	0.991	0.994	0.989	0.994	0.995	—

北海道

北東北：青森，岩手，秋田

南東北：宮城，山形，福島

昭和44年

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	東山	京阪周辺	北陸	中京	京阪神	山陰	山陽	北四国	南四国	北九州	南九州
北海道	—	0.992	0.994	0.983	0.968	0.989	0.971	0.985	0.979	0.961	0.987	0.976	0.985	0.980	0.982	0.882
北東北	0.992	—	0.992	0.977	0.963	0.981	0.966	0.986	0.973	0.956	0.983	0.972	0.983	0.977	0.976	0.973
南東北	0.994	0.992	—	0.988	0.976	0.992	0.978	0.990	0.988	0.969	0.992	0.982	0.989	0.986	0.987	0.985
北関東	0.983	0.977	0.988	—	0.979	0.990	0.969	0.988	0.988	0.966	0.988	0.979	0.982	0.981	0.980	0.977
南関東	0.968	0.963	0.976	0.979	—	0.981	0.978	0.966	0.986	0.989	0.978	0.987	0.970	0.985	0.977	0.974
東山	0.989	0.981	0.992	0.990	0.981	—	0.975	0.983	0.990	0.971	0.989	0.981	0.985	0.984	0.984	0.981
京阪周辺	0.971	0.966	0.978	0.969	0.978	0.975	—	0.976	0.985	0.991	0.982	0.990	0.979	0.990	0.991	0.990
北陸	0.985	0.986	0.990	0.988	0.966	0.983	0.976	—	0.983	0.966	0.991	0.981	0.991	0.986	0.987	0.984
中京	0.979	0.973	0.988	0.988	0.986	0.990	0.985	0.983	—	0.982	0.992	0.999	0.988	0.993	0.992	0.989
京阪神	0.961	0.956	0.969	0.966	0.989	0.971	0.991	0.966	0.982	—	0.974	0.991	0.970	0.987	0.984	0.981
山陰	0.987	0.983	0.992	0.988	0.978	0.989	0.982	0.991	0.992	0.974	—	0.990	0.994	0.993	0.993	0.989
山陽	0.976	0.972	0.982	0.979	0.987	0.981	0.990	0.981	0.990	0.991	0.990	—	0.987	0.997	0.993	0.991
北四国	0.985	0.983	0.989	0.982	0.970	0.985	0.979	0.991	0.988	0.970	0.994	0.987	—	0.991	0.992	0.990
南四国	0.980	0.977	0.986	0.981	0.985	0.984	0.990	0.986	0.993	0.987	0.993	0.997	0.991	—	0.996	0.995
北九州	0.982	0.976	0.987	0.980	0.977	0.984	0.991	0.987	0.992	0.984	0.993	0.993	0.992	0.996	—	0.995
南九州	0.982	0.973	0.985	0.977	0.974	0.981	0.990	0.984	0.989	0.981	0.989	0.991	0.990	0.995	0.995	—

昭和34年

表3 地域間食パターン異質指数

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	東山	京周 阪辺	北陸	中京	京阪神	山陰	山陽	北四国	南四国	北九州	南九州
北海道	—	5	4	10	37	11	17	15	16	33	10	14	13	11	12	11
北東北	5	—	7	16	39	15	14	12	18	29	11	11	13	10	11	11
南東北	4	7	—	7	29	9	14	15	11	24	9	10	11	8	9	8
北関東	10	16	7	—	25	9	10	23	27	27	13	15	14	11	12	11
南関東	37	39	29	25	—	26	34	47	23	13	43	25	38	32	30	29
東山	11	15	9	9	26	—	18	23	13	25	15	15	16	13	14	13
京阪周辺	17	14	14	10	34	18	—	11	12	15	11	6	8	8	8	10
北陸	15	12	15	23	47	23	11	—	17	28	11	12	10	11	15	17
中京	16	18	11	27	23	13	12	17	—	16	12	9	9	8	9	9
京阪神	33	29	24	27	13	25	15	28	16	—	31	12	23	19	18	19
山陰	10	11	9	13	43	15	11	11	12	31	—	10	7	7	8	10
山陽	14	11	10	15	25	15	6	12	9	12	10	—	7	5	5	6
北四国	13	13	11	14	38	16	8	10	9	23	7	7	—	5	7	8
南四国	11	10	8	11	32	13	8	11	8	19	7	5	5	—	4	4
北九州	12	11	9	12	30	14	8	15	9	18	8	5	7	4	—	4
南九州	11	11	8	11	29	13	10	17	9	19	10	6	8	4	4	—

北 関 東：茨城，栃木，群馬

南 関 東：埼玉，千葉，東京，神奈川

東 山：新潟，山梨，長野，静岡

昭和 39 年

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	東山	京周 阪辺	北陸	中京	京阪 神	山陰	山陽	北四国	南四国	北九州	南九州
北海道	—	7	9	11	37	12	31	17	21	38	11	20	18	20	17	13
北東北	7	—	11	19	50	19	33	13	27	45	12	25	16	26	18	18
南東北	9	11	—	10	30	10	26	12	16	30	11	18	20	18	18	14
北関東	11	19	10	—	23	9	26	17	11	28	10	15	20	15	16	13
南関東	37	50	30	23	—	20	27	36	22	12	38	19	54	17	39	29
東山	12	19	10	9	20	—	24	14	11	23	13	14	21	13	13	14
京阪周 辺	31	33	26	26	27	24	—	23	17	12	24	12	28	12	17	13
北陸	17	13	12	17	36	14	23	—	16	29	12	19	16	17	15	15
中京	21	27	16	11	22	11	17	16	—	18	13	11	18	9	12	9
京阪 神	38	45	30	28	12	23	12	29	18	—	34	12	42	11	26	19
山陰	11	12	11	10	38	13	24	12	13	34	—	13	5	16	9	9
山陽	20	25	18	15	19	14	12	19	11	22	13	—	17	4	10	6
北四国	18	16	20	20	44	21	28	16	18	42	5	17	—	17	8	11
南四国	20	26	18	15	17	13	12	17	9	11	16	4	17	—	10	6
北九州	17	18	18	16	39	18	17	15	12	26	9	10	8	10	—	5
南九州	13	18	14	13	29	14	13	15	9	19	9	6	11	6	5	—

昭和 44 年

	北海道	北東北	南東北	北関東	南関東	東山	京周 阪辺	北陸	中京	京阪 神	山陰	山陽	北四国	南四国	北九州	南九州
北海道	—	8	6	17	32	11	29	15	21	39	13	24	15	20	18	18
北東北	8	—	8	23	37	19	34	14	27	44	17	28	17	23	24	27
南東北	6	8	—	12	24	8	22	10	12	31	8	18	11	14	13	15
北関東	17	23	12	—	21	10	31	12	12	34	12	21	18	19	20	23
南関東	32	37	24	21	—	29	22	34	14	11	22	13	30	15	23	26
東山	11	19	8	10	19	—	25	17	10	29	11	19	15	16	16	19
京阪周 辺	29	34	22	31	22	25	—	24	15	9	18	10	21	10	9	10
北陸	15	14	10	12	34	17	24	—	17	34	9	19	9	14	13	16
中京	21	27	12	12	14	10	15	17	—	18	8	10	12	7	8	11
京阪 神	39	44	31	34	11	29	9	34	18	—	26	9	30	13	16	19
山陰	13	17	8	22	22	11	18	9	8	26	—	10	6	7	7	11
山陽	24	28	18	21	13	19	10	19	10	9	10	—	13	3	7	9
北四国	15	17	11	18	30	15	21	9	12	30	6	13	—	9	8	10
南四国	20	23	14	19	15	16	10	14	7	13	7	3	9	—	4	5
北九州	18	24	13	20	23	16	9	13	8	16	7	7	8	4	—	5
南九州	18	27	15	23	26	19	10	16	11	19	11	9	10	5	5	—

北 陸：富山，石川，福井

中 京：岐阜，愛知，三重

京 阪 神：大阪，京都，兵庫

図1 地域別, 異質指数の変化
— 34年, 39年, 44年 —

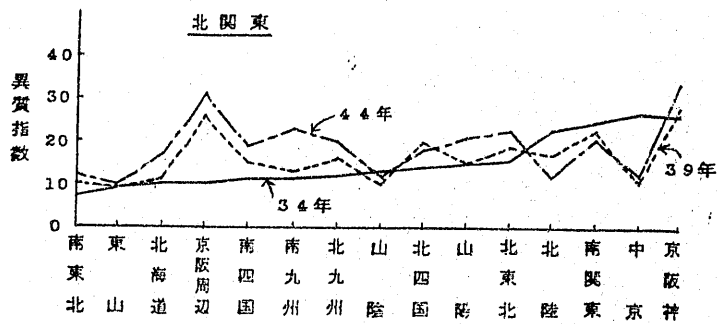
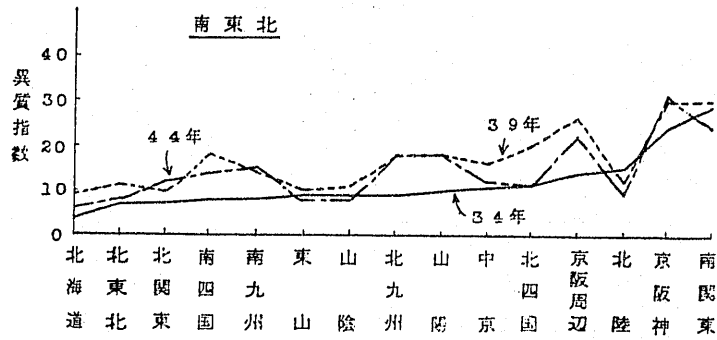
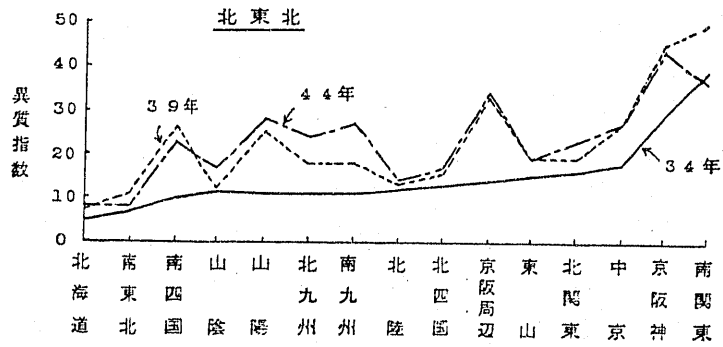
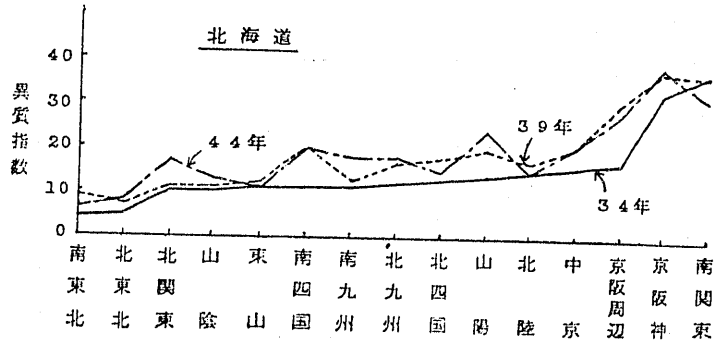


图 1

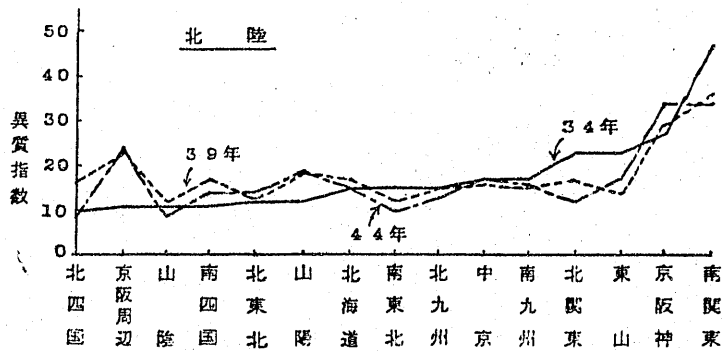
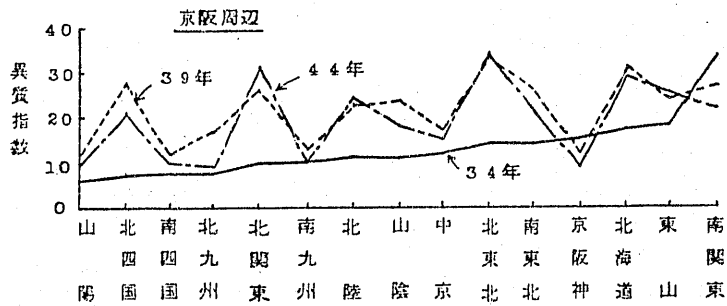
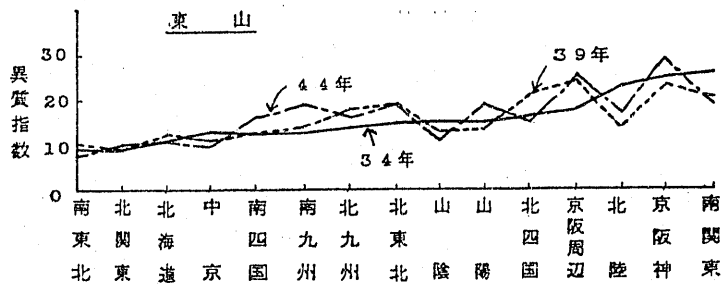
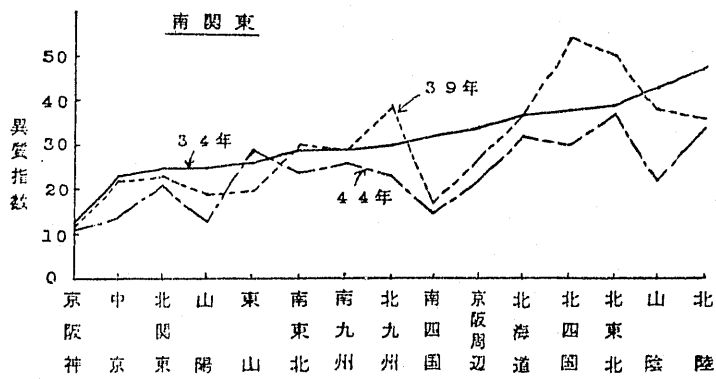


图 1

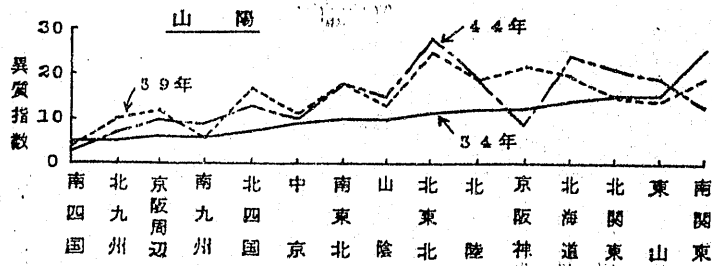
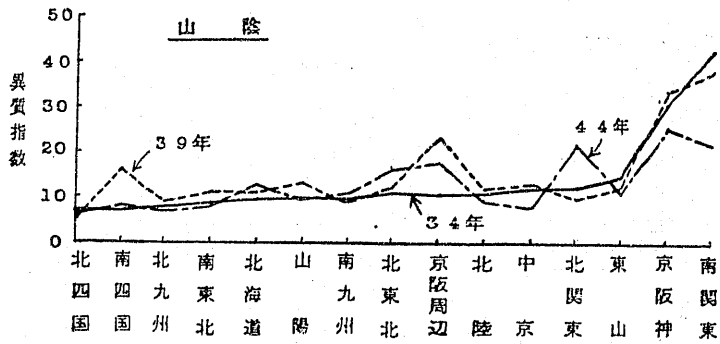
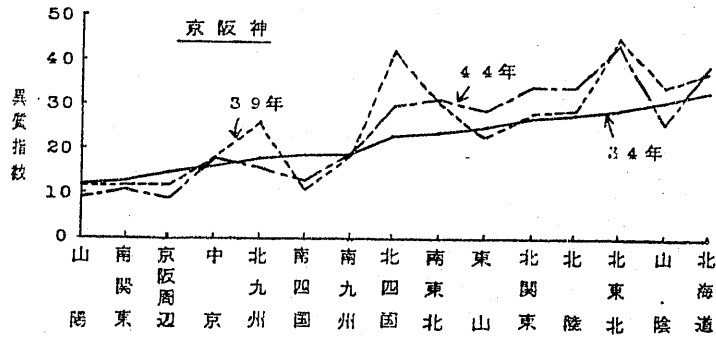
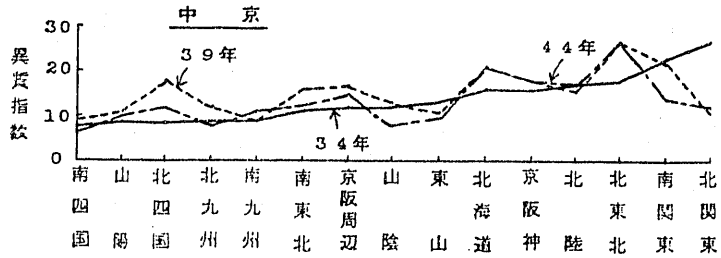
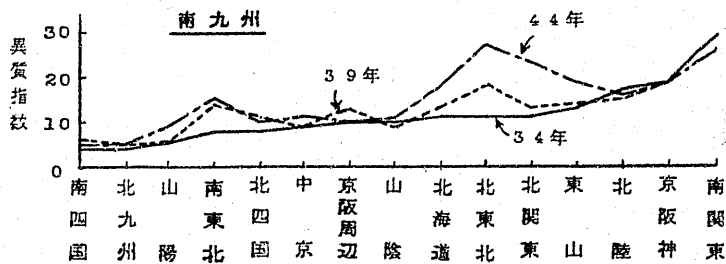
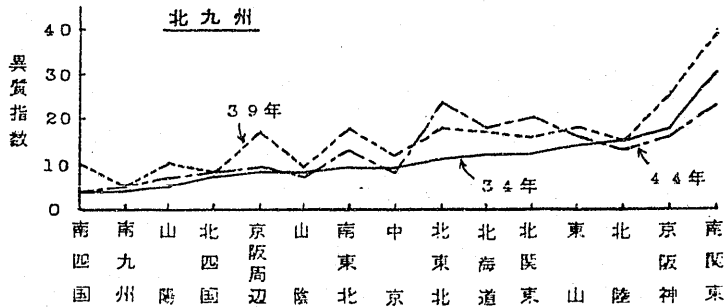
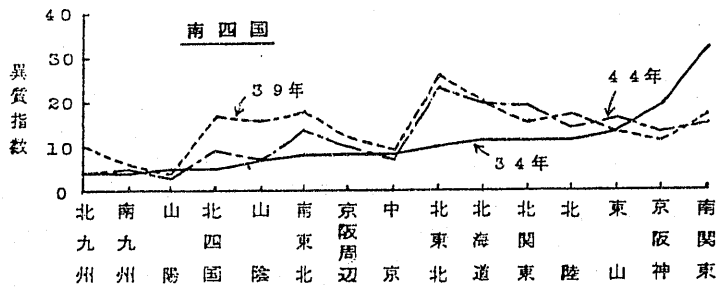
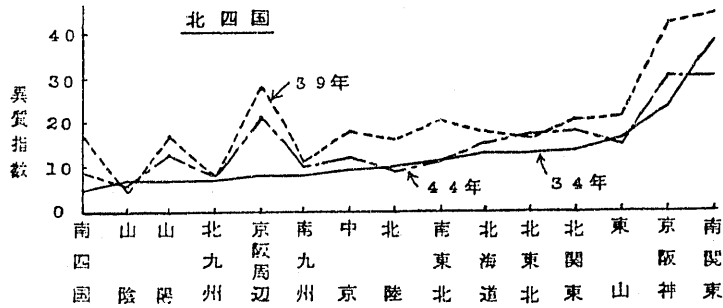


図 1



京阪周辺：滋賀，奈良，和歌山
山陽：岡山，広島，山口
山陰：鳥取，島根
北四国：愛媛，香川
南四国：高知，徳島
北九州：福岡，佐賀，長崎，大分
南九州：熊本，宮崎，鹿児島

ここでは特に異質指数によって各地域の特徴と変化について考察してみることにする。

I 異質指数の水準とその変化の地域パターン

異質指数の水準ならびに昭和34年から44年までの3年次間の変化によって各地域の特徴をみるといくつかのパターンに区分することができる。

まず、異質指数30を基準として全地域をみるとそれより高い地域、低い地域ならびに中間地域の3個のパターンに分類することができる。

(1) 異質指数高水準地域

各地域に対する異質指数が昭和44年あるいはそれ以前において30以上のところがみられる地域である。北海道，北東北，南関東，京阪神がこのパターンにはほぼ該当する。しかし、昭和34年から44年までの時間的経過にともなう変化は、これらの地域の中でも異なっている。たとえば、北東北では、昭和34年においては30以上の異質指数を示したのは南関東のみであったが、昭和44年には南関東のほか京阪神，京阪神周辺が30を超えているのみならず、すべての地域の異質指数が昭和39年よりも増大している。北海道の異質指数変化は北東北に著しく類似している。ただ、昭和39年以降における異質指数の増大の幅が北東北よりも若干小さい点において異なっている。南関東の特徴は、3年次における各地域に対する異質指数の変化が著しいということである。昭和34年を中心として、39年，44年には著しい増大，減少の変化を示している。しかし、京阪神の変化は南関東のそれとは異なっている。京阪神の各地域に対する異質指数は、昭和34年に比較して、39年，44年には一般にかなり著しく増大する傾向を示していることが特徴である。京阪神との異質指数が30以上を示す地域が増大してきたのは、39年，44年においてである。

以上の如く、異質指数が30以上の高水準を示している地域は、南関東，北東北，北海道の東日本の地域であって、西日本では京阪神だけである。しかし、これらの地域においても異質指数の変化は同じではない。

(2) 異質指数低水準地域

大部分の地域はこの異質指数低水準地域に属している。南東北，東山，北関東，北陸，中京，山陰，山陽，南四国，北四国，北九州，南九州の11地域である。

以上の11地域を、3年次間の変化の特徴によってみると、昭和34年以降の変化が少なく、ほぼ34年水準を維持している地域と、34年以降全般的に異質指数が増大する地域に分けることができる。

異質指数の変化の少ない地域

東山，中京，北陸，山陰

異質指数増大傾向の地域

南東北，北関東，南四国，北四国，山陽，南九州，北九州

(3) 異質指数中間水準の地域

この第3のパターンに属すると考えられるのは滋賀、奈良、和歌山をふくむ京阪周辺地域だけである。しかし、この地域も昭和34年においては南関東を除きその他の地域に対する異質指数は著しく低かったが、39年、44年には全般に上昇し、30前後の異質指数水準を示す地域が増大した。

次に、異質指数が昭和34年以降どのような変化のパターンを示してきたかの観点からみるとほぼ次の3個のパターンに区分することができる。

(1) 異質指数上昇傾向地域

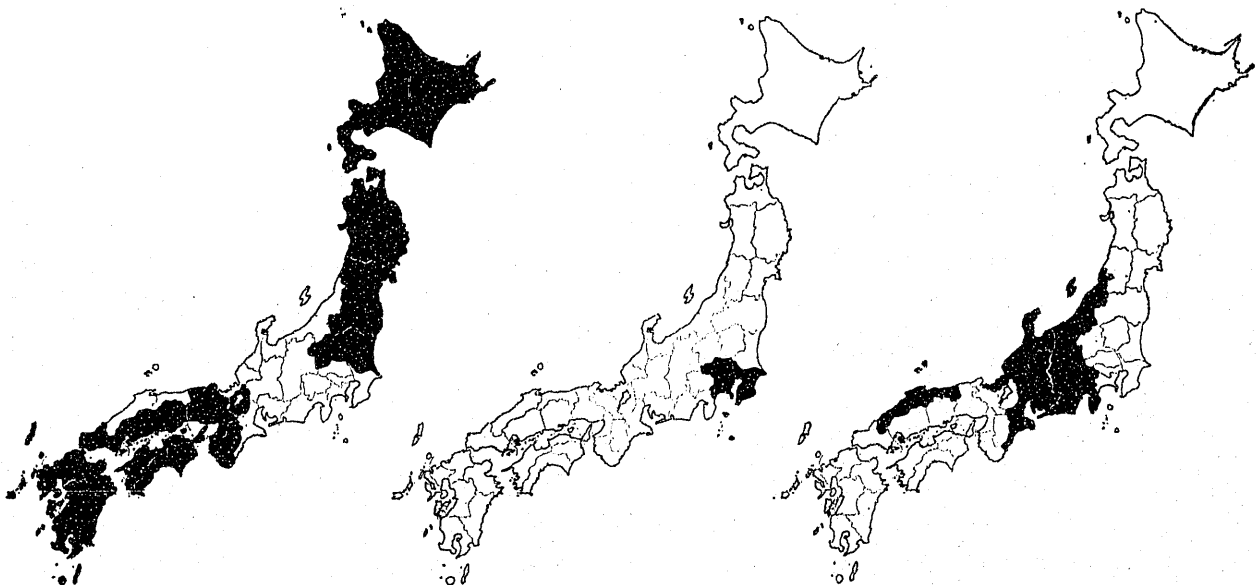
異質指数水準が昭和34年に比較し、39年、44年において増加した地域は、京阪周辺、北東北、北海道、南東北、北四国、山陽、南四国、南九州、北九州、京阪神、北関東の11地域である。16地域の大部分はこの異質指数水準増大地域に該当する。しかし、このばあい、異質指数水準が39年、44年に規則的に増大傾向を示しているとは限らない。39年には増大したが44年には低下している地域もある。

図2 異質指数変化のパターン

(1) 異質指数上昇傾向地域

(2) 異質指数水準低下傾向地域

(3) 異質指数がコンスタントの地域



たとえば、北東北、北海道、南九州、北九州では、異質指数が上昇する地域が増加する傾向を示しているのに対して、南東北、北四国、南四国では異質指数が低下する地域が44年には反って増加している。また、京阪神、京阪周辺、山陽、北関東のように異質指数が増加、減少する地域が昭和39年と44年において交錯しながら、増加、減少のいずれともいえない傾向をみせている地域もある。いずれにしてもここでは、異質指数が34年に比較して、39年あるいは44年において高くなっている地域が多いばあいを示した。

(2) 異質指数水準低下傾向地域

異質指数水準が一般的に低下の傾向があきらかなのは南関東（東京大都市圏）のみである。昭和39年においては南関東に対する異質指数が34年に比較して増大した地域が若干あったが、44年においてはすべての地域が34年水準よりも低下している（わずかに東山地域のみが34年よりもわずかに高くなっている）。以上のことは、南関東を中心としてみれば、全国のすべての地域が南関東の消費パターンに接近する傾向を示してきたことを示唆している。

(3) 異質指数水準がコンスタントの地域

各地域との異質指数水準が昭和34年を基準として、39年、44年において著しい変化を示さず、ほぼ

コンスタントの状態を示している地域は、山陰、東山、中京、北陸の4地域である。主として日本列島の中部の地域がこのパターンに属することが注目される。

II 東日本と西日本の特徴

消費パターンの異質指数から、東日本および西日本の諸地域についてみると注目すべき変化がみとめられる。

第1は、西日本諸地域の京阪神および南関東に対する異質指数の低下の傾向、いいかえれば、京阪神および京浜の大都市地域に対する類似性が強まる傾向である。他方において、北関東、北東北に対する異質性が高まる傾向がみとめられる。

第2は、東日本の諸地域の京阪神に対する異質指数が増大し、南関東のそれが減少する傾向である。

第3は、東日本と西日本の中間地帯である北陸、中京、東山諸地域の動向である。これらの地域では京阪神に対する異質指数が増大しながら、南関東に対するそれが低下する傾向がみられる。いいかえれば、これらの中間地域ではじゅうらいの阪神に対する消費パターンの類似性が減少し、東京大都市圏の消費パターンに接近する傾向を示しているということである。

以上の傾向は次の如く要約することができるであろう。西日本の多くの地域の消費パターンは、単に阪神に対してのみならず、南関東（東京大都市圏）に対しても接近する傾向を示すと同時にそれは東日本の典型的なパターンを保持していると思われる北東北、北関東のそれから離反するという傾向に反映している。東日本の多くの地域においては、京阪神のパターンから離反する傾向と南関東のそれに接近するといった2個の傾向によって、南関東への傾斜を明確にしている。そしてまた、中間地域（中部地方）では、京阪神から離反し、南関東に接近する傾向があらわれてきた。以上のことは、日本列島における消費パターンの東日本対西日本ならびに東京（南関東）対京阪神のダイコトミ体系が東京を頂点とするピラミッド体系に凝集する傾向のあることを示唆している。

III 各地域の個別観察

以上において、各地域の異質指数の水準、その変動の観点ならびに東日本、西日本の観点から、日本列島における地域消費パターンの基本的動向を考察してみた。次に、このようなマクロ的にみた日本列島の消費パターンの動向を、個々の地域の観点からミクロ的に分析してみよう。

(1) 北海道一大都市地域との格差が著しい—

北海道の各地域に対する異質指数は、南関東を除きすべての地域で、34年に比較して39年、44年では増大している。

南関東、京阪神および京阪周辺に対する異質指数のみは各年次共30を超えており、もっとも高い。その他の地域に対する異質指数はほぼ20以下の低水準にあり、それらの地域間の格差は少ない。北海道の消費パターンの特徴は大都市地域との格差が大きい、その他の全国各地域間の格差は全般に小さい。

(2) 北東北一大都市地域との格差が特に著しい—

北海道とほぼ同様、南関東と京阪神との格差が大きい。異質指数は40前後である。その他の各地との異質指数はむしろ拡大する傾向さえみとめられる。東日本の山陰、山陽、北九州、南九州の異質指数は44年において最高となっている。北海道、南東北、北陸との格差は小さく、変化もわずかである。特に、北海道、南東北と共にほぼ同一の消費パターン圏を形成していることがみられよう。

(3) 南東北—北陸・山陰・東山と接近—

表4 異質指数分散度の変化

地域別		平均	標準偏差	変化係数	地域別		平均	標準偏差	変化係数
北海道	34年	15	8.7	58.3	中京	34年	14	5.5	39.1
	39年	19	9.3	49.0		39年	18	5.7	31.6
	44年	17	8.5	49.8		44年	13	5.3	47.7
北東北	34年	15	8.4	55.8	京阪神	34年	22	6.5	29.4
	39年	23	11.8	51.4		39年	25	11.1	44.4
	44年	23	9.8	42.5		44年	24	10.9	57.3
南東北	34年	12	6.5	53.8	山陰	34年	14	9.6	68.3
	39年	17	6.8	40.2		39年	15	9.4	62.7
	44年	14	6.7	48.0		44年	13	6.2	47.5
北関東	34年	15	5.8	38.7	山陽	34年	11	5.1	45.9
	39年	16	6.1	37.9		39年	15	5.6	37.6
	44年	19	6.8	35.7		44年	14	6.6	47.2
南関東	34年	31	8.2	26.6	北四国	34年	13	8.1	62.4
	39年	30	11.7	38.9		39年	20	10.4	52.2
	44年	22	8.3	37.9		44年	15	7.0	46.5
東山	34年	16	5.1	31.9	南四国	34年	10	6.9	69.3
	39年	16	4.6	29.0		39年	14	5.5	39.0
	44年	16	5.6	35.1		44年	12	5.9	49.5
京阪周辺	34年	13	6.4	49.2	北九州	34年	11	6.4	58.1
	39年	22	7.0	31.8		39年	16	8.0	50.2
	44年	19	8.5	27.5		44年	13	6.3	48.5
北陸	34年	18	9.3	51.8	南九州	34年	11	6.2	56.3
	39年	18	6.7	37.2		39年	13	5.9	45.3
	44年	17	7.6	47.7		44年	15	6.8	45.2

北海道、北東北と同様に、南東北も京阪神、南関東、京阪周辺地域との格差は著しいが異質指数水準は30あるいはそれ以下であって、北東北の40以上、北海道の35前後と比較するとかなり低い。各地域との異質指数もむしろ低下する傾向がみられる。特に、北陸、山陰、東山の昭和44年の異質指数は34年の水準を割って最低となっている。昭和44年の異質指数水準がほぼ10以下の低水準にあるのは、北海道、北東北、東山、山陰、北陸の5地域となっていることが注目される。

(4) 北関東—京阪周辺からの離反、中京・北陸・山陰への接近—

各地域との異質指数の格差は比較的小さく、かつ縮少の傾向がみられた。つまり変化係数を算定してみると昭和34年に38.7%であったのが、39年には37.9%、44年には35.7%と規則的な低下傾向を示している。特に、京阪周辺の異質指数が昭和34年では10にすぎなかったのが、44年には30を超え、3倍以上となっていることと、他方反対に中京、北陸が著しく低下して南東北、東山、山陰と同水準となっていることが注目される。

(6) 南関東—異質指数の全般的低下—

東京を中心とする大都市圏地域である南関東の異質指数の変化は特にはげしい。昭和44年を34年に

比較すると、ほとんどすべての地域の異質指数が低下を示している。昭和34年よりも異質指数が高くなっているのは東山のみである。34年に比較して39年で異質指数が高くなったのは、北四国、北東北、北九州、南東北とかなり多くの地域にみられた。しかし、この昭和44年にみられる変化は、全国各地域の南関東への接近の傾向を示している。特に、異質指数の低いのは、京阪神、中京、山陽、南四国である。

(6) 東山—京阪神との格差拡大—

東山の各地域との異質指数は全般に低い。また、各年次間の変化も比較的小さい。特に、昭和34年と44年との比較において注目されるのは、京阪神、京阪周辺、山陽、南九州の異質指数が高くなったことである。特に京阪神、京阪周辺はもっとも高い水準にあり、東山の消費パターンと近畿地方のそれとの格差が拡大し、他方において南関東のそれが低下していることが注目される。異質指数水準が10前後の低水準にあるのは、南東北、北関東、北海道、中京、山陰である。また、異質指数水準が高くなったのは、上述の京阪神、京阪周辺、山陽のほかに、南九州、南四国がある。

(7) 北陸—京阪神からの離反、南関東への接近—

北陸の各地域に対する異質指数で注目すべき第1の変化は、京阪神のそれが規則的に増大し、南関東のそれが規則的に低下し、消費パターンが京阪神から南関東への偏向傾向がみられることである。京阪周辺も京阪神と同様な傾向をたどっている。第2の変化は、北関東、南東北、山陰の異質指数の低下である。異質指数が10前後の最低水準を示しているのは、山陰、北四国、南東北である。もっとも低い異質指数は山陰であって、北陸と山陰の日本海の特徴を示唆しているように思われる。

(8) 中京—関東地域へ接近、東北から離反—

昭和34年には、北関東、南関東の異質指数がもっとも高かったが、44年には両者とも著しい低下を示している。異質指数がもっとも高くなったのは北東北と北海道である。異質指数がもっとも低いのは、山陰、南四国、東山、北九州であってそれぞれ10以下を示している。

(9) 京阪周辺—東日本からの離反、西日本的性格の強化—

滋賀、奈良、和歌山の3県の地域である。異質指数は全般に昭和34年水準から増大する傾向がみられる。特に、北東北、北海道、北関東の異質指数の著しい増大が注目される。異質指数の低下は京阪神であって、10以下の最低水準を示している。南関東は昭和34年において最高の異質指数を示していたが、そのあと規則的な低下傾向を示している。10前後の低水準異質指数を示しているのは京阪神、北九州、南九州、山陽であって、京阪周辺とこれらの地域との関係の強化を示唆している。

(10) 京阪神—南関東への接近、東日本からの離反—

京阪神の基本的特徴は、各地域の異質指数の格差が昭和34年以降急速に拡大していることである。変化係数でみると、昭和34年には29.4%と他の地域との格差は小さいが、39年には44.4%となり、さらに44年には57.3%と著しく格差拡大がみられている。異質指数が著しく大きくなったのは北東北、北海道、北陸、北関東であっていずれも30以上である。反対に異質指数が縮少してきたのは南四国、北九州、京阪神である。昭和44年において10前後の最低異質指数を示しているのは、京阪神、山陽、南関東、南四国である。南関東の異質指数はがらうら低水準にあるがこの10年間にわずかながら規則的に低下を続けている。また、北四国の異質指数が南四国のそれよりもはるかに高いことが注目される。

(11) 山陰—中京、南関東、京阪神へ接近、東日本から離反—

各地域の異質指数格差が著しい縮少を示している点において、京阪神とのそれとは全く反対の傾向である。変化係数でみると、昭和34年には68.3%であったのが、39年には62.7%、そして44年には

47.5%と急激な収縮傾向を示した。京阪神、南関東の異質指数は昭和34年、39年においていずれも30以上の高水準にあったが、44年には25あるいはそれ以下に低下している。南関東の異質指数が、昭和34年、39年共に京阪神のそれよりも高かったが、44年には逆転して南関東の方が低くなっていることが注目される。また、昭和44年において北関東、北東北の異質指数が高くなり、他方、中京、北陸が低下しているのが注目される。昭和44年において10以下の最低異質指数水準を示しているのは中京、北陸、北四国、南四国、北九州、南東北、南九州の諸地域である。

(12) 山陽—京阪神、南関東への接近、東日本からの離反—

各地域と山陽との異質指数は全般に拡大傾向にある。北東北、北海道の異質指数は高水準にあり、かつ増大傾向を示している。異質指数の縮小傾向で注目されるのは、京阪神と南関東である。特に南関東の異質指数は昭和34年において最高水準にあっただけにその著しい低下が注目される。異質指数が昭和44年において10以下の低水準にあるのは、南四国（5以下の最低水準）、南九州、北九州、京阪神、京阪周辺、中京の諸地域である。山陰の異質指数が10以上にあつてわずかながら増大傾向を示していることが注目される。南四国、北四国、北九州、南九州といった西日本の異質指数が著しく低いことは、山陽地域との人口移動その他経済社会的交流の濃密化の過程を反映しているように思われる。

(13) 北四国—南関東、京阪神への接近、格差の一般的縮小—

各地域の北四国に対する異質指数の格差は縮小の傾向にある。変化係数でみると昭和34年には62.4%、39年には52.2%、そして44年には46.5%と規則的に収縮している。昭和34年において異質指数が最大であったのは南関東であったが、昭和44年には京阪神と同水準に低下している。昭和44年においてなお高い異質指数を示しているのは京阪周辺である。異質指数が10以下の低水準を示しているのは、南四国、山陰、北九州、南九州、北陸の諸地域である。

(14) 南四国—京阪神、南関東への接近著しく、東日本から離反—

注目すべき第1の変化は南関東、京阪神の異質指数が著しく収縮し、15以下に達したことである。北四国における南関東、京阪神の異質指数が収縮したといえども、なお南四国の2倍の高水準にあることである。第2の変化は、北東北、北海道、北関東の異質指数が高水準にあることである。異質指数が10以下の低水準にあるのは山陽（5以下で最低水準）、北九州、南九州、山陰、北四国、中京の諸地域である。山陽は地理的にみて北四国の方が南四国よりも接近しているにもかかわらず、異質指数は南四国の方が低いことは注目すべき点であろう。

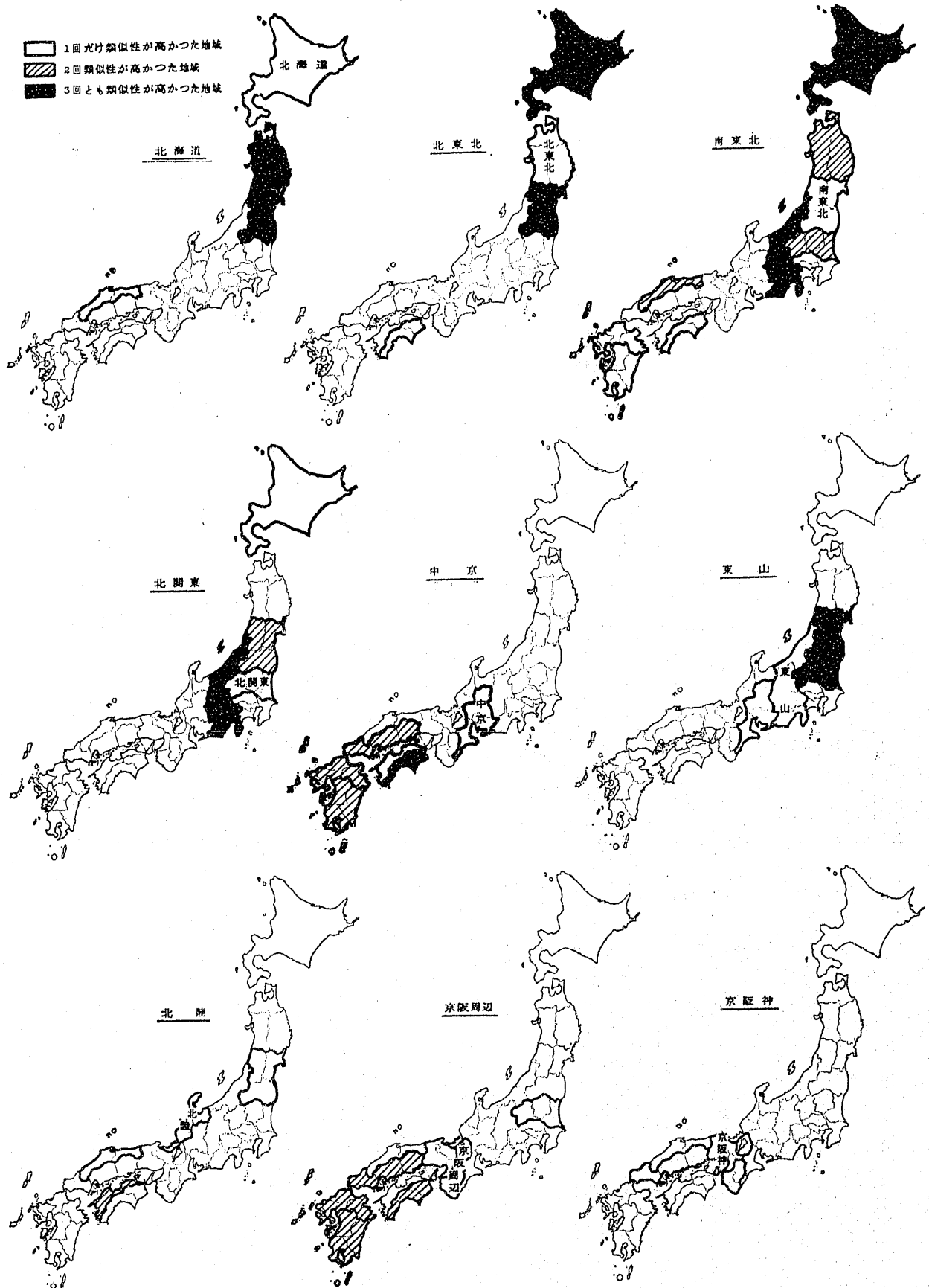
(15) 北九州—大都市地域との格差大、周辺地域との高類似性—

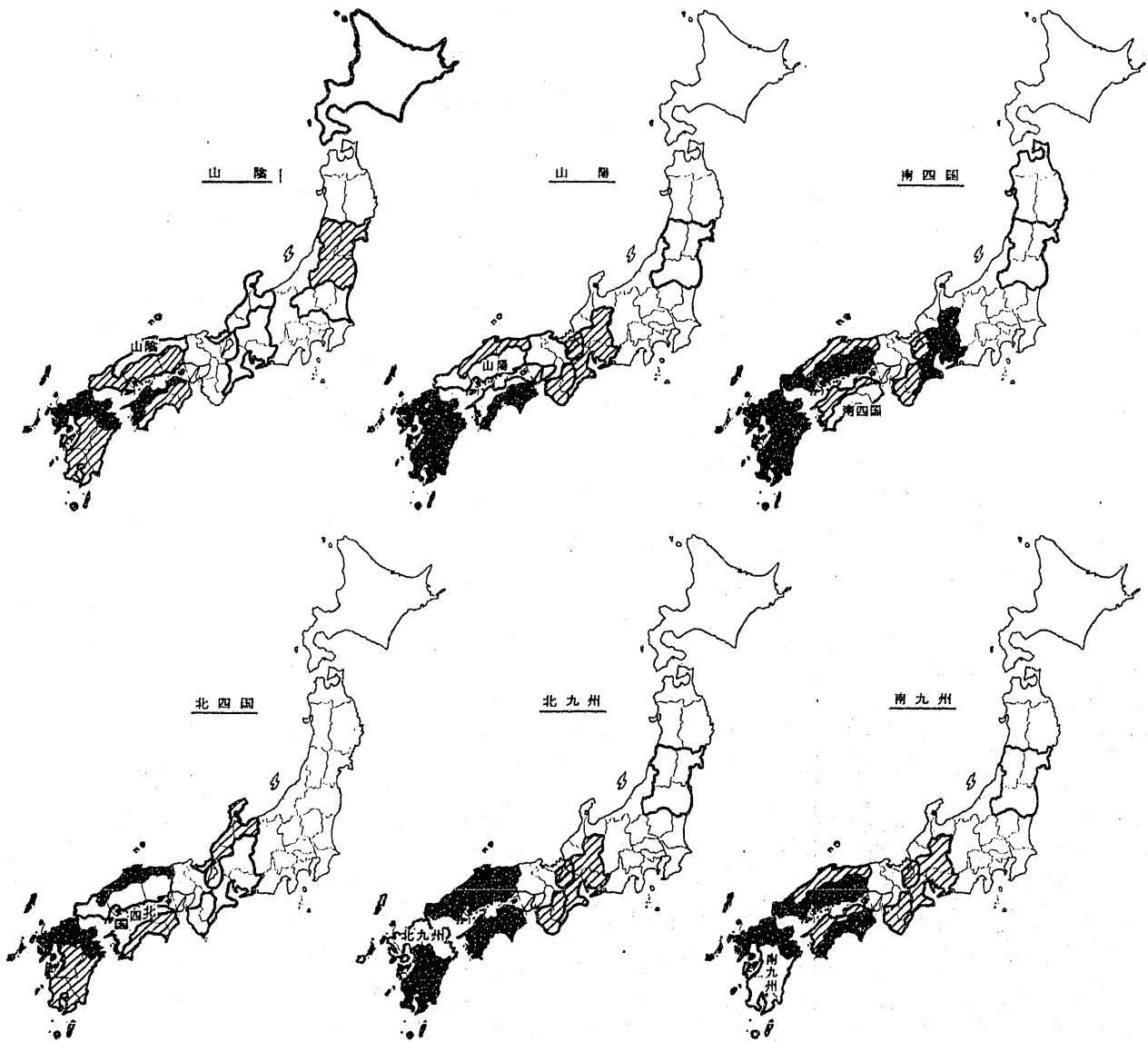
異質指数が特に高いのは南関東と北東北および北関東である。京阪神のそれは南関東よりも若干低いがお高水準である。以上のことは北九州の消費パターンは、京阪神や南関東の大都市のパターンに接近する傾向はみとめられるがいぜんとして格差の大きいことを示している。異質指数が10未満の低水準にあるのは、南四国、南九州（いずれも5の最低水準にある）、山陽、北四国、山陰、中京、京阪周辺等の諸地域である。特に隣接する南九州、山陽と多少離れている南四国の高度類似性が注目されよう。

(16) 南九州—大都市地域との格差収縮せず、東日本との格差拡大—

南関東との異質指数がなお北東北とのそれと同じく30に近い高水準にあることが特徴である。京阪神の異質指数は南関東のそれより低く20の水準にあるが、この10年間にほとんど変化がみられない。他方、北東北や北関東の異質指数水準は、北九州に比較してはるかに高い水準に増大している。異質指数が10以下の低水準にあるのは、南四国、北九州、山陽、京阪周辺の地域である。

図3 各地域からみた高類似性分布





IV 異質指数水準からみた消費パターン類似地域

個々の地域がどの地域ともっとも類似した消費パターンをもっているかを、異質指数が3年次を通じて10以下である地域によってみると次の如くである。また、さらにこれを図示したものが図3である。

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| (1) 北海道：南東北，北東北 | (9) 京阪周辺：なし |
| (2) 北東北：北海道，南東北 | (10) 京阪神：なし |
| (3) 南東北：北海道，東山 | (11) 山陰：北四国，北九州 |
| (4) 北関東：東山 | (12) 山陽：南四国，北九州，南九州 |
| (5) 南関東：なし | (13) 北四国：山陰，北九州 |
| (6) 東山：南東北，北関東 | (14) 南四国：山陽，南九州，北九州，中京 |
| (7) 中京：南四国 | (15) 北九州：南四国，南九州，山陽，北四国，山陰 |
| (8) 北陸：なし | (16) 南九州：南四国，北九州，山陽 |

以上の地域関係は、消費パターンからみた1つの地域連関分布構造である。注目すべき点は、第1に3年次を通じて南関東は異質指数10以下の地域をもっていないことである。全国各地域が大都市地域の消費パターンに接近する傾向は、最初にのべた如くみとめられるとしても、異質指数10以下の水準にはまだ達していないことを意味している。地域別にみた1つの特徴は、山陰と山陽との関係である。地理的にもっとも近接した関係にあるが両者の間には異質指数10以下の類似性はみられない。それぞれ、四国や九州とは類似性の高い消費パターンをもっている。また山陰の特徴は、北九州や北四国と著しく類似性の高い消費パターンをもっていることである。以上のことは、地理的条件が基本的に重要な要因ではあるが、それ以外に経済的社会的要因が消費パターンに影響を与えていることを示唆している。

3章 東京と大阪パターンからみた異質性

前章においては16の個々の地域の食パターンのマトリックス分析において東京大都市圏（南関東）の食パターンに対する全国的な接近の傾向があることを示した。これは重大な課題である。巨大都市の東京と大阪が食パターンにおいてもそれぞれ日本を代表する対立的モデルであることは一般にみとめられているところである。しかし、前章の分析は、いくたの新しい変化を示唆している。東日本の諸地域の東京パターンへの接近、西日本諸地域の大阪ならびに東京パターンへの接近、あるいは中部地域の東京パターンへの指向といった傾向があらわれている。極端な表現をすれば大阪パターンの地盤沈下といえないこともない。

しかし、東京パターンと大阪パターンとの関係は必ずしもあきらかではない。大阪パターンの東京パターンへの接近か、その反対であるか、あるいはまた両者の相互接近である

図4 東京パターンからみた各地域の変化

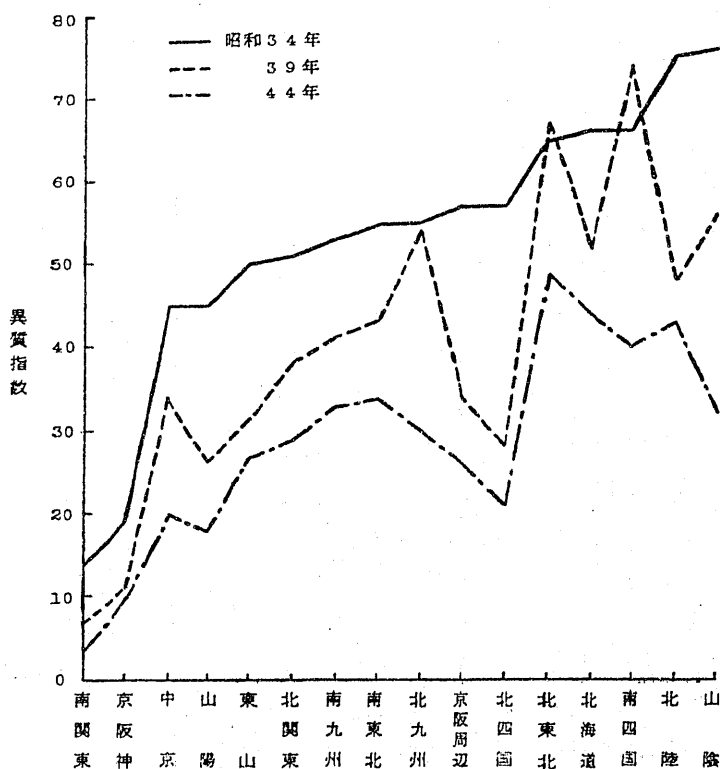
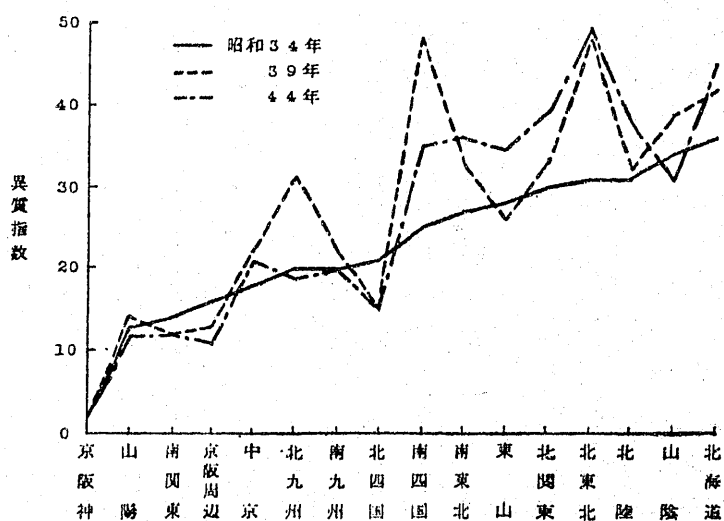


図5 大阪パターンからみた各地域の変化



かを明確に断定することはこんなんである。

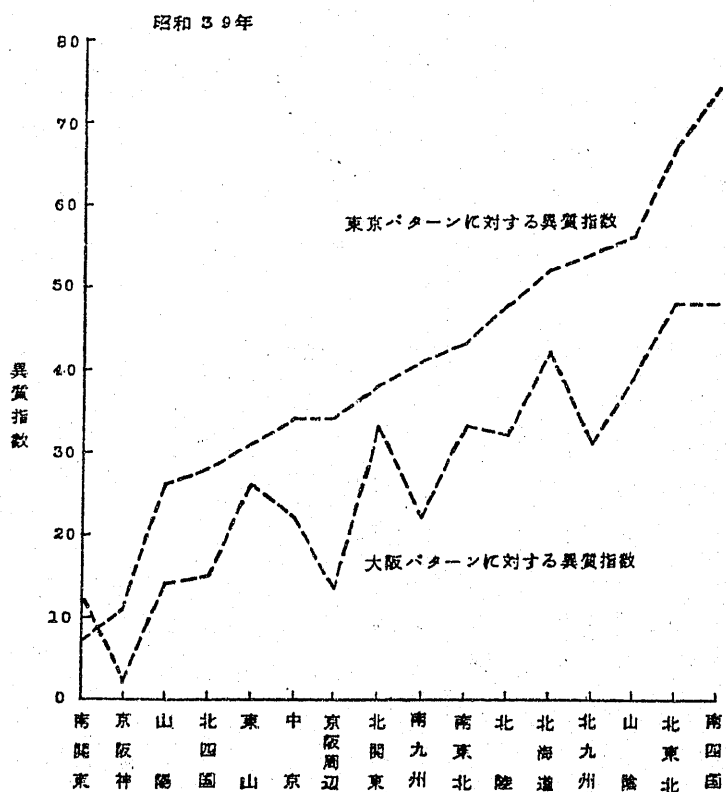
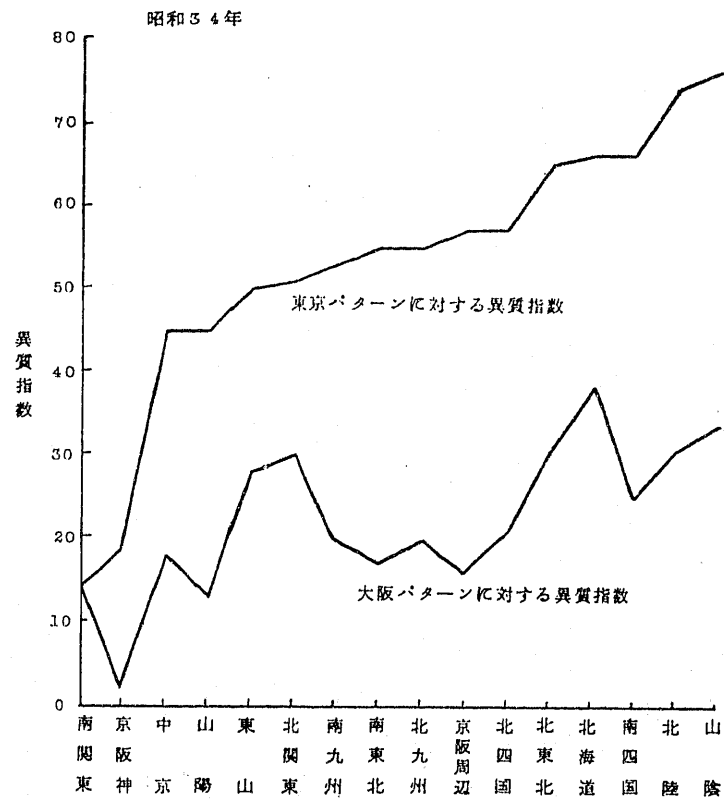
いまかりに、東京、大阪をそれぞれ基準として各地方の異質指数の水準とその変化についてみると図4、5の如くであって、このような関係の分析のための参考となるであろう。

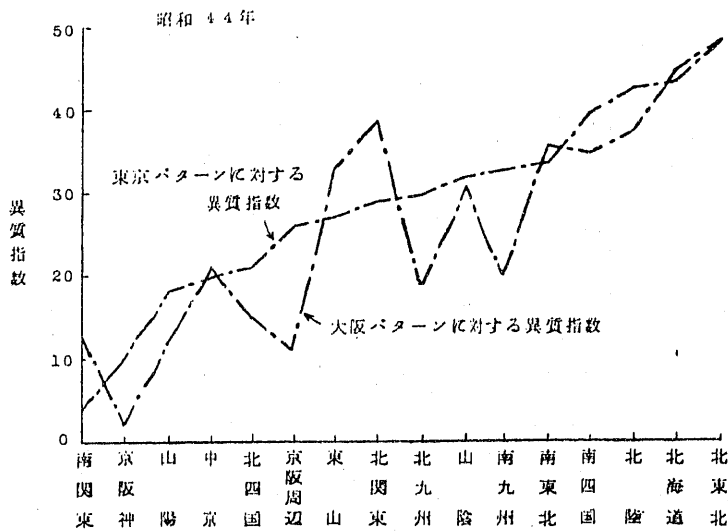
この図は、東京、大阪それぞれの異質指数の3年次間における変化を示したものである。東京と各地域との異質指数は昭和34年においては著しく高かったが、39年、44年には著しく低下し、類似性が高まってきたことを示している。大阪のばあいは全く反対に、昭和34年の低い異質指数が39年、44年には一般に高まっている。この傾向は特に南四国、南東北、東山、北関東、北東北、北海道で著しい。いいかえれば、大阪パターンから離反する地方が増加してきたということである。

図6は東京、大阪パターンの異質指数を各年次について一緒に示したものである。昭和34年にはあきらかに大阪パターンに対する各地域の異質指数は東京パターンのそれよりも著しく低かった。しかし、39年には東京パターンに対する異質指数の低下、大阪パターンに対する異質指数の上昇によって両者は著しく接近している。しかし、なお、東京パターンに対する異質指数の方が高水準にあった。ところが、昭和44年には両者は一層接近し、相互に交錯するに至った。それは大阪パターンからの離反と東京パターンへの接近という傾向の結果としてあらわれたものである。

しかし、以上のことから直ちに大阪パターンの独立的地位の消滅傾向

図6 地域別にみた東京と大阪パターンの異質性
—昭和34年, 39年, 44年—





を結論することはできない。たとえば、北九州の大阪パターンに対する異質指数は昭和39年の30から44年の20に低下し、東京パターンに対する異質指数は同じく50から30に低下しているが、いぜんとして大阪パターンに対する異質指数の方が低い。南九州もほぼ同様である。しかし、山陰は昭和44年では東京、大阪の両パターンに対する異質指数はほぼ同水準に達している。南四国は昭和44年には逆転して大阪パターンに対する異質指数が東京のそれを上回るに至った。

以上の傾向から、少なくとも東京パターンが大阪パターン以上の影響力を持ち始めてきたということはいえそうである。

An Analysis on Regional Differences of Food Consumption: Similarity Index of Dietary Pattern (2)

Sumiko UCHINO

1. Reduction of regional differences of dietary pattern is generally recognized. However, any particular direction or pattern to which the reduction of regional differences has been oriented is seldom demonstrated so far.

2. In order to find out regional differences of dietary pattern, dietary life should be represented as a whole including every food item. An effort in this direction was made. A percentage distribution of expenditures of each item of all foods disbursed to purchase them was calculated for each prefecture, and then similarity index of dietary pattern of each prefecture for all remaining prefectures was computed (Technical note on similarity index is given in my paper, "An Analysis on Regional Differences of Food Consumption: Similarity Index of Dietary Pattern", *Annual Reports of the Institute of Population Problems* 1972, pp. 60-65). Basic data for this attempt were derived from the National Surveys of Family Income and Expenditures conducted every five years since 1959 by the Bureau of Statistics, Prime Minister's Office.

3. Of course, it should be noted that similarity index is essentially of relative nature, and also a percentage distribution of all purchased foods does not necessarily reflect exactly dietary structure of each prefecture. Nevertheless, I suppose that this is a new approach and, consequently, may be expected to shed some light on the reduction of regional differences of dietary patterns from an different angle of observation.

4. Some interesting findings are summarized as follows. Firstly, the Tokyo dietary pattern seems to be exerting much stronger influence on local prefectures than the Osaka pattern. Secondly, it is recognized that several local prefectures closely geographically connected with each other show very similar pattern of dietary life. However, on the other hand, some exceptions are found. Some prefectures show higher similarity to remote prefectures than to neighbouring ones. In addition, it should be noted that traditionally different pattern of dietary life between north-eastern and south-western Japan still persists and also this kind of dichotomy seems to be accentuated between Kita-Tohoku, typically reflecting north-eastern Japan, and Kyushu, typically representing south-western Japan.